

JAIR Newsletter

No.161 October 2019

日本国際政治学会


<http://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言.....	1	2020 年度研究大会報告募集のお知らせ.....	5
国立公文書館に関する要望と申し入れ.....	2	理事会便り.....	6
2019 年度学会奨励賞について.....	3	編集後記.....	7
事務局からのお知らせ.....	4		

情動エンジニアリングの政治——インドネシアの現場から

本名純

先月、The Global Disinformation Order の 2019 年版が公開された。これはオックスフォード大学インターネット研究所のプロジェクトで、各国の政権がソーシャルメディアで組織的にプロパガンダを扇動している実態を報告するものである。2017 年に 23 カ国でその実態が確認されたが、今年 は 70 カ国に上った。増加率 150%。いかに世界各地でフェイクニュースや虚偽情報が政治のツールとして急速に定着しつつあるかが窺える。

私が研究するインドネシアでも、ここ 2 年間で顕著に政権や与党エリートがサイバー部隊を組織して、ソーシャルメディアを政治の武器にするようになった。それは多様な局面で効果を発揮しているが、共通するのが情動エンジニアリングである。つまり、市民の嫌悪感や不安や恐怖心を煽る情報やナラティブを大規模に繰り返し発信することで、理性ではなく脳の情動に直接訴えかけ、保身や排除の世論扇動につなげていく手法に他ならない。

例えば麻薬対策。Drug-Free ASEAN 2015 という「地域目標」に遠く及ばない現実には政府は、翌年から検挙数を上げて数字で実績アピールするようになった。密売の末端プッシャーとバイヤーをパクって牢屋にぶち込む。逃げようものなら発砲する。こういう超法規的な処刑が全国に広がった。しかし、人権派市民団体を除いて世論の大勢は政策を支持した。その世論を導いてきたのがサイバー部隊である。麻薬常習者はジャンキーでだらしなく社会のゴミであり危険な犯罪者だというナラティブと共に、「真面目な市民を悪魔から守るための対策」という政府プロパガンダが、ソーシャルメディアを圧倒した。この情動を揺さぶる脳のハッキングは思考停止をもたらし、大規模な人権侵害が正当化されてきた。

選挙政治でも情動エンジニアリングは効果を発揮している。今年 4 月の大統領選挙では、現職陣営のサイバー部隊が暗躍した。対抗馬のプラボウォが当選したらイスラーム過激勢力が力を持ち、シャリアが導入される。そういうデマが組織的にソーシャルメディアで拡散された。結果、イスラーム穏健派の多くやキリスト教徒などの宗教マイノリティーの大多数が現職の再選を支持し、プラボウォは敗退した。これほど露骨に宗教問題で社会が分極化した選挙は過去にない。

そして今、与党連合のエリートたちは、「民主化 20 年」の肝である汚職撲滅運動を骨抜きにしようとしている。これまで議員や地方首長たちを大量に検挙してきた汚職撲滅委員会 (KPK) を弱体化させる法案を国会で可決した。その暴挙に怒る学生たちが、全国でデモを繰り返している。与党は学生の分断を狙ったサイバー戦に出た。「KPK はタリバンのような過激主義者たちの拠点になっており、改革しないと彼らに政府を乗っ取られる」と不安を煽る。その効果もあり、国内最大の学生組織「イスラーム学生連盟」はデモに消極的になっている。

このように、インドネシアでは虚偽情報が権力定着と民主化後退の政治ツールとなりつつある。これは世界的に特殊事例ではなく、むしろトレンドの一例にすぎない。ぜひ国際的な比較研究をやってみよう。



「新たな国立公文書館の建設に関する要望と申し入れ」について

時下、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

2018～2020 年期第 8 回理事会（2019 年 9 月 14 日）は、現在基本的建設案が策定中の新国立公文書館に関して、外務省に対する要望と申し入れを理事長名で送付することを決議しました。

本学会は 2012 年 1 月に、前年の公文書管理法の施行を受け、理事会の決議を経て、古城佳子理事長名で、外交文書の保存・公開に関する要望書を外務省に提出し、外交文書の適切な保存・管理と積極的な公開、「30 年公開原則」、外交文書のデジタル化とウェブ上での公開を求めた経緯があります。本学会はこの問題に引き続き重大な関心を寄せてきましたが、今回外交史料館の統合を含む新国立公文書館の建設計画が今年末までにまとめられる予定であるとの新聞報道に接し、理事会の承認を得て、以下のように、9 月 30 日に理事長名で外務省に対し建設計画に関する学会の懸念を伝えると共に、意見交換の機会を要望し、申し入れを行いました。

今後、学会の要望と申し入れが具体化する場合には、理事・監事と分科会関係者と相談しながら、対応したいと存じます。皆様のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018～2020 年期 理事長 佐々木 卓也

2018～2020 年期 事務局主任 石川 卓

令和元年 9 月 30 日

外務大臣

茂木 敏充 殿

一般財団法人日本国際政治学会

理事長 佐々木 卓也

新たな国立公文書館の建設に関する要望と申し入れ

新たな国立公文書館の建設をめぐり、現在、外交文書の新館への集約や外交史料館の移設に関して検討が進められていると承知しています。本学会の国際政治・外交史を専攻する多くの会員は、新館の建設によって公文書全般をめぐる環境整備が飛躍的に進むことを大いに期待しています。

他方、新館建設に伴う外交文書の扱いや外交史料館の在り方がどのようなものになるのかは、今後の研究の発展を左右する重大事であり、私達研究者にとって研究上の死活問題であるといっても過言ではありません。それにもかかわらず、関係する学会や専門家とのコミュニケーションがないままに事態が進展しかねないことに大きな懸念を抱いております。

日本における外交文書の公開は、外務省と研究者との対話と協力を通じて、他省庁に先駆けて改善が図られてきたという経緯があります。外務省が有識者を交えた外交記録公開推進委員会を設け、戦後期の外交文書を積極的に公開していることを私たちは高く評価しています。

また、平成 23 年の公文書管理法施行に際して、本学会は要望書「外交文書の保存と公開に新たな体制を」（平成 24 年 1 月 31 日）を外務大臣宛に提出し、諸外国とりわけ中国や韓国などの近隣諸国が外交文書の公開を進めている事情に鑑み、日本として外交文書の公開を加速することを求めました。歴史認識問題や過去に起因する諸問題が日本外交にとって重要な課題であり続けるなか、外交文書公開促進と活用の必要性はいっそう増しています。

新たな国立公文書館の建設計画が進められているこの時機に、外交文書の扱いや外交史料館の在り方をより望ましいものへと近づけるために、専門家や学会の意見を参酌する議論の場を設定いただくように要望し、ここに申し入れを行う次第です。

(以上)

2019 年度学会奨励賞について

2019 年度の学会奨励賞は、帯谷俊輔会員の『『強制的連盟』と『協議的連盟』の狭間で』『国際政治』第 193 号（2018 年 9 月）に決まりました。以下、首藤もと子・審査委員長からの講評と、帯谷会員の「受賞の言葉」を掲載します。

日本国際政治学会奨励賞の選考について

選考委員会は、18 本の論文を対象にして、7 月 28 日に第 1 次選考を行い、その上位 2 本の論文を対象に 8 月 5 日に第 2 次選考を行った。その結果、帯谷俊輔著『『強制的連盟』と『協議的連盟』の狭間で—国際連盟改革論の位相』（『国際政治』193 号）を、受賞候補論文として理事会に推薦することに全会一致で合意した。

帯谷論文は、国際連盟の集団安全保障機能について、連盟規約には当初から協調と強制という 2 つの方向性が内在したことを述べ、その 2 つの国際連盟像をめぐる議論が、戦間期にどのように展開したかについて論じている。本論文は、大きく次の 4 つの対比を軸にした構成になっている。

第 1 は時代の対比である。1920 年代にはイギリスの連盟外交が中心となり、制裁ではなく、調停と協調路線が展開されたが、1930 年代には、国際連盟改革論のなかで、大国間協調による「協議的連盟」に対して、中国が制裁を伴う「強制的連盟」像を提示したことが、多くの一次史料を用いて描かれている。とくに、イギリスと中国の姿勢が実証的に分析されており、中国の役割について独自の知見を提示している。第 2 に、イギリス（大国）と中国（小国）の対応を対照的にとらえることにより、とくに 1930 年代後半に、イギリスが大国中心の「協議的連盟」に固執した一方、中国（国民政府）が制裁を含む「強制的連盟」を主張した経緯や、国際連盟の対イタリア制裁に中南米諸国が反感を強め制裁懐疑論が出たことを論じている。第 3 に、「協議的連盟」は理事会が主な舞台であったのに対して、中国の「強制的連盟」論は、国際世論に訴えるうえで効果的な総会場で行われたことを論じている。そこで、「協議的連盟」と「強制的連盟」の対比は、「非公式な事前協議に依存した大国間協調による連盟運営」と「公式な制度に則った総会における決定」との対比であったことが浮き彫りにされている。第 4 に、戦間期の国際秩序をめぐる議論が国際連盟の失敗として終わるのではなく、「強制的連盟」論の想定した要件は、米英ソと並ぶ大国となった中国を通して、国連憲章第 7 章に明文化されたという指摘も重要である。

近年、国際連盟の活動を再評価する研究は多いが、それらが社会的・文化的な面を重視しているのに対し、本論文は、集団安全保障機能について新たな視点からの議論を展開しており、国際連盟研究の進展に大きく資する論文である。また、「協議的連盟」と「強制的連盟」の継続性と変化を長期の枠組みでとらえ、国連への単純な継承や断絶の議論には収まらない動的な議論を展開している。それはまた、今日の国際秩序を検討する際にも示唆に富む内容である。

ただし、議論の経緯については、もう少し整理して論じる工夫があればよかったという意見も出された。しかし、総じて本論文は、国際連盟史料やイギリスの外交文書および台湾にある外交部档案や国民政府档案等の一次史料を丹念に読み込んで執筆された力作であり、国際連盟の研究や国際政治史研究として高く評価できる。

選考委員会主任 首藤もと子

受賞の言葉

この度は名誉ある賞を頂きまして大変光栄に存じます。まずは選考委員の先生方、第193号編集の篠原初枝先生、そして二名の匿名の査読者の先生方に厚くお礼を申し上げます。

受賞論文は、国際連盟における普遍・地域関係を扱った博士論文を提出した後で、国際連盟と国際連合の継続性に着目しながら国際連合の起源を再検討する研究に取り組むにあたり、博士論文と新しい研究のブリッジとして執筆したものです。国連創設においては、アメリカとソ連がそれぞれ連盟の非加盟国、除名国だったこともあり連盟の歴史との断絶が過剰にアピールされました。そこで、国連の性質の起源を憲章の起草過程のみならず、連盟の運営のなかで構築された「強制的連盟」「協議的連盟」といった国際機構像や連盟に関する学知に探ることを試みています。連盟期に集団安全保障の相対化が行われていたこと、国連憲章につながるような集団安全保障強化論が既に出ていた一方でそれに対する懐疑論も強かったこと、そしてその集団安全保障に対する懐疑は実際の国連の展開を先取りしていたことを明らかにしております。受賞を励みに、今後は1950年頃まで、第二次世界大戦中及び創設後初期の国連の展開を対象に研究を進めていく所存です。

最後に修士課程以来ご指導を頂いている酒井哲哉先生、川島真先生、後藤春美先生、日本学術振興会特別研究員（PD）の受入研究者を引き受けて頂いた細谷雄一先生に感謝を述べさせていただきます。

この度は誠にありがとうございました。

帯谷俊輔



事務局からのお知らせ

1. 新入会員の承認

第8回理事会（9月14日開催）で入会申込書等が回覧され、計30名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

2. 今後の研究大会予定

2021年度の研究大会は、名古屋市の名古屋国際会議場で10月29～31日に開催することになりました（大会実行委員長は小尾美千代会員）。なお、2020年度の研究大会は、つくば市のつくば国際会議場で10月23日～25日に開催を予定しています（大会実行委員長は湯川拓会員）。

3. 英文ジャーナル編集委員会アシスタントの交代

長年にわたり英文ジャーナル編集委員会アシスタントをお務めいただいた郷古貴美子さんと北久美子さんが、それぞれ6月末日、9月末日をもって退職され、後任に氏家左江子さんと桑原洋子さんが就任しました。

4. 会員登録情報更新のお願い

所属機関や学会誌送付先住所に変更があった場合には、会員登録情報の更新をお願いいたします。特に、学会活動活性化のため、メールアドレスの登録・更新にご協力ください。学会ウェブサイトの「会員データ変更」から「オンライン会員情報管理システム（e-naf）」に入り、修正・追加もしくは変更の申

請を行っていただけます [https://www.e-naf.jp/JAIR/member/login.php]。

5. 各種パスワードの「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」への掲載

『国際政治』は刊行後2年を経過するとJ-STAGEにおいて公開されますが、それ以前にも会員に限りID・パスワードを用いて閲覧いただけます。また、学会ウェブサイト、シンポジウムなどのお知らせの掲載を希望される場合、「投稿フォーム」のページ [http://jair.or.jp/information/form.html] からパスワードを使ってお知らせの内容を投稿いただけます。

これらのID・パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」にログインいただければ、常時ご覧いただけます。

なお、e-nafへのログインに必要な会員番号とパスワードは、2017年11月または入会時に郵送にてお知らせしております。

2018-2020 年 期 理 事 長 佐々木卓也
2018-2020 年 期 事 務 局 主 任 石川卓

2020 年度研究大会 部会企画・自由論題報告募集のお知らせ

2020年度研究大会（つくば国際会議場（茨城県つくば市）、2020年10月23日～25日）での部会企画の提案および自由論題（部会）の報告希望を募集致します。応募に必要な事項は以下の通りです。応募に際して、報告者についての下記の内規を確認していただくようお願い致します。なお部会（自由論題部会を含む）での報告者には、ペーパーの提出が義務づけられています。

(1) 締め切り：2019年12月13日（金）（必着）

送付方法：応募はe-mailまたは郵送にてお願いいたします。

送付先：〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科18号館 森井裕一

e-mail：ymorii☆ask.c.u-tokyo.ac.jp（☆を@に置き換えてください）

メールの件名または封筒に「日本国際政治学会2020年度研究大会部会企画・報告応募」と明記してください（郵送の場合、学内の配達に時間を要するため、都内からでも投函翌日には届かないことが多いので、余裕を持って発送してください）。

(2) 応募に必要な事項

①部会企画案

(i)テーマ、(ii)趣旨（800字～1200字程度）、(iii)報告者、司会者、討論者、などを記すこと。英語で実施する場合は、その旨明記してください。

②自由論題報告案

(i)テーマ、(ii)要旨（800字～1200字程度）などを記すこと。英語で報告する場合は、その旨明記してください。

部会企画の提案者もしくは自由論題の報告希望者のいずれも、氏名、所属、職名、連絡先（住所、電話番号、e-mailアドレス）を記すこと。

応募用紙は、学会HP (http://jair.or.jp) にてダウンロードできます。また、ニューズレター161号（2019年10月刊行）からリンクを貼っておりますので、ご利用ください。

(3) 部会参加に関して、以下の事項が内規に定められていますので、ご注意ください。

1. 部会参加者は、原則として、会員及び入会申請中の者とする。
2. 一般会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去二年間（2018年度、2019年度）に開催された研究大会の部会で報告を行った会員（申請中を含む）は、報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。
3. 3. 学生会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去一年間（2019年度）に開催された研究大会の部会で報告を行う会員（申請中を含む）は、報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。

4. 4. 自由論題部会にて報告を行う場合、上記の2. 及び3. に加え、応募時において過去二年間（2018年度、2019年度）に開催された研究大会の分科会で報告を行っていない会員（申請中を含む）、学生会員の場合は過去一年（2019年度）の大会で報告していない会員が優先される。

企画・研究委員会主任 森井裕一

理事会便り

編集委員会からのお知らせ

『国際政治』特集号（207号）の投稿募集を開始します。詳細は下記 URL をご覧ください。

- 207号「ラテンアメリカ——内政と国際関係の再検証」（仮題）
宮地隆廣会員編集担当
申込締切：2020年4月30日

投稿募集要項はこちらから。

<http://jair.or.jp/committee/henshu/3788.html>

原稿を提出する際の執筆要領はこちら。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

なお、独立論文の投稿は随時受け付けています。投稿の申込先などは『国際政治』各号の末尾に記載されているのでご覧ください。

特集号、独立論文ともに、会員の皆さまの投稿をお待ちしています。

編集委員会主任 山田敦
副主任 磯崎典世
jair-edit☆jair.or.jp
(☆を@に変えてください)

国際交流委員会からのお知らせ

1. World International Studies Committee (WISC)第6回世界大会（2020年7月15日～17日、於：アルゼンチン、ブエノスアイレス）へのパネル等公募のご案内

国際関係学分野の学会のグローバルなネットワークである World International Studies Committee (WISC) が、2020年7月15日から17日までブエノスアイレス（アルゼンチン）にて第6回世界大会（Sixth Global International Studies Conference）を開催することになっており、下記の要領にてセクション、ペーパー、パネル等各種募集を行っておりますので、周知いたします。

(1) 公募内容：

- ① セクション公募（Call for Sections）
2019年9月1日～2019年10月15日
- ② ペーパー、パネル、ラウンドテーブル公募（Call for Papers, Panels, and Roundtables）
2019年11月1日～2019年12月15日
- ③ Exploratory Workshops 公募（Proposals for Exploratory Workshops）
2019年12月15日締切

(2) 応募方法：

下記のサイトにて各種募集に関する指示に従い、直接ご応募ください。

<https://www.wiscnetwork.net/argentina2020>

(3) 採否通知（Notifications of Acceptance/Rejections）

2020年2月15日（WISCより直接通知）

2. 2019 年度国際学術交流助成（第 2 回募集）

2019 年度国際学術交流助成（第 2 回募集）への申請を公募しております。

申請資格・助成対象・申請方法の詳細については、以下のページをご参照ください。

<http://jair.or.jp/committee/kokusaikoryu/3734.html>

なお、申請上の注意・申請用紙は以下のページよりご利用可能です。

http://jair.or.jp/documents/academic_exchange.html

募集の締切が 11 月 28 日（木）で一橋事務所必着となっております。

第 1 回募集（追加募集を含め）は 7 月 18 日に締め切られ、応募者はいませんでした。第 2 回募集にあたって、一層積極的なご応募をお待ちしております。

3. 日中韓フォーラム（10 月 24 日（木）～26 日（土） 於：韓国ソウル、韓国高等教育財団、延世大学）における大学院生の参加者募集の結果

韓国国際政治学会（KAIS）からの要請に基づいて、同学会の主催で 10 月 24 日（木）から 26 日

（土）まで韓国ソウルにて開かれる日中韓フォーラム（フォーラム名：「米中関係の未来と韓日中協

力」）への参加者募集は 9 月 16 日（月）で締め切りました。審議の結果、阿部和美会員、大瀧芽衣氏、

岡本 樹氏、小杉拓己氏、小林晴美氏、小林茉樹氏、角谷敦史氏、瀬古龍司氏、ワイエブ 壮飛杏氏、中

沢優希氏の参加が決定しました。参加者代表の報告はニューズレターに掲載の予定です。ご応募くださ

った皆様、並びに募集にご協力くださった会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

国際交流委员会主任 潘 亮

広報委員会からのお知らせ

学会 HP では、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、HP 右側のメインメニューの「お知らせ投稿フォーム」をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要があるため、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」内に掲載されております。e-naf にログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターや HP に関してお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に代えてください)

広報委员会主任 山田哲也

■編集後記

会員の中に台風の被害に見舞われた方は、いらっしゃいませんか。温暖化のせい、年々、台風が大型化しているように感じます。日本全国、どこが被災地になってもおかしくない時代になってしまいました。(TY)

明治中期までは日本一の人口規模を誇ったという新潟県。コメや魚、それに日本酒など研究大会の期間中にも触れた食は、その人口を支えた豊かさを感じさせるものでした (TM)

今号は、短いながらも様々な内容の記事を掲載することが出来ました。限られた時間の中で原稿に協

力していただいた皆さま、ありがとうございました。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.161
(2019 年 11 月 6 日発行)

発行人 佐々木 卓也

編集人 山田 哲也・宮城 大蔵・小林 哲

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学第三研究館内

日本国際政治学会 一橋事務所気付

山田哲也 jair-pr☆jair.or.jp